

資料 1

第3次枚方市食育推進計画

中間評価報告書

(案)

令和3年○月

枚方市

目 次

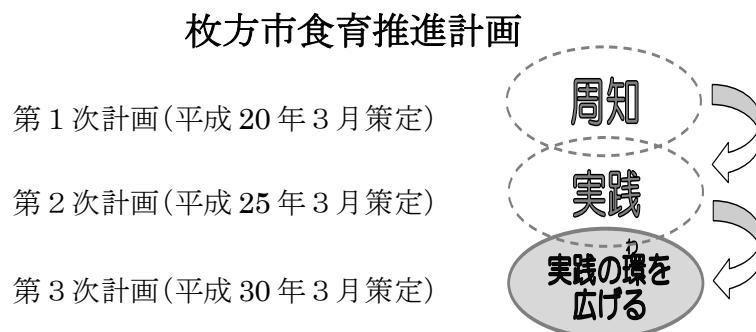
1.	枚方市食育推進計画の経過と 第3次枚方市食育推進計画の特長について ······	2
2.	計画期間 ······	2
3.	中間評価について ······	2
4.	各指標の評価にあたっての留意事項 ······	4
5.	評価の方法 ······	4
6.	第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値 ···	5
7.	指標ごとの達成状況 ······	7
8.	今後、優先的に取り組むべきこと ······	31
9.	資料編	
	● 「食」に関する市民意識調査結果	
	● 「食」に関するアンケート結果（高校生・大学生・専門学校生）	
	● 小中学校における食育の取り組み状況アンケート	
	● 幼稚園・保育所（園）・認定こども園における食育の取り組み状況アンケート	

1. 枚方市食育推進計画の経過と第3次枚方市食育推進計画の特長について

枚方市における食育の推進は、平成20年3月に第1次食育推進計画を策定し、子どもから大人まで、一人ひとりが「食」に関する正しい知識と「食」を選択する判断力を身に付けること、また、「食」を大切にする心を伝えること等、主に『周知』に力を入れてきました。

第2次計画では、生涯にわたり健全な食生活を実践するネットワークを築きながら、市民運動としての食育の推進に取り組む等『実践』に重点を置き進めてきました。

第3次計画では、第2次計画の評価と課題から、新たな基本方針として「若い世代を中心とした食育の推進」「健康寿命の延伸につながる食育の推進」を特長として掲げるとともに、コミュニケーションを図りながら、食の知識やマナーの享受が期待できる「共食」や米飯を中心とした日本型食生活の推進を第3次計画より加え、『実践の環（わ）を広げる』ことを目指しています。



2. 計画期間

計画期間は、平成30年度（2018年度）から令和5年度（2023年度）までの6年間とします。この期間の中間にあたる令和2年度（2020年度）に中間評価を行います。

3. 中間評価について

（1）中間評価の流れ

【令和元年度】	9月	枚方市健康推進本部 食育推進部会
	12月	第1回枚方市食育推進計画審議会
【令和2年度】	8～10月	アンケート実施
	12月	第1回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	1月	第1回枚方市食育推進計画審議会
	2月	第2回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	3月	第2回枚方市食育推進計画審議会
	3月	枚方市健康推進本部
	3月	第3次枚方市食育推進計画 中間評価報告書作成

（2）調査の方法

評価の基礎資料となるアンケートについては、令和2年1月頃からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、一部策定時と異なる方法（インターネットアンケート）で実施しました。

- 「食」に関する市民意識調査（20歳以上）

実施期間：令和2年10月1日～令和2年10月31日

実施方法：郵送

有効回答数：1,490人

- 「食」に関するアンケート（市内高校6校、大学・専門学校4校対象）

実施期間：令和2年9月15日～令和2年10月31日

実施方法：インターネット

有効回答数：987人

- 小中学校における食育の取り組み状況アンケート

実施期間：9月

実施方法：インターネット及び郵送

有効回答数：64校（市内公立小中学校全校）

- 幼稚園・保育所（園）・認定こども園における食育の取り組み状況アンケート

実施期間：令和2年8～10月

実施方法：インターネット及び郵送

有効回答数：98施設（市内全施設）

上記アンケート結果をもとに枚方市食育推進計画審議会において審議を行い、中間評価報告書としてまとめました。

4. 各指標の評価にあたっての留意事項

第3次枚方市食育推進計画の策定時より、計画の基本方針に沿った食育活動を推進してきました。しかし、令和2年1月頃からの新型コロナウイルス感染症拡大により、飲食を伴う食育活動や多くの人が集まる講座やイベント、農業体験等が中止となり、様々な食育活動に大きな影響を及ぼしました。

そのため、計画の進捗を確認するためのアンケートにおいては、新しい生活様式下における食に関する意識の変化や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う食生活の変化について新たに設問を追加して実施しました。

今後、食に関する意識の変化をふまえ、新しい生活様式に対応した食育を推進するため、各指標の評価を行いました。

5. 評価の方法

目標項目の達成状況については、アンケート及び府内関係各課の実績データ等を利用し、計画策定時値と現状値及び目標値の比較により、以下の判定基準を用いて目標達成度を判定しました。

	目標達成度	説明
A	目標達成	目標値に達成していたもの
B	目標は達成していないが改善傾向	策定時よりは数値が改善しているが、目標値には達していないもの
C	変化なし及び悪化	策定時と比較し、数値に変化がないもの及び、悪化したもの

6. 第3次枚方市食育推進計画における指標に関する現状値

指標		計画策定時 (H29年度調査)
包括指標	①食育に関心のある人の増加	77.0%
	②食育活動を実践している人の増加	68.6%
基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進	③ー1欠食のある幼児の減少	0.4%
	③ー2朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	小学6年生 5.9% 中学3年生 7.9% 高校生 6.6%
	③ー3朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	男 15.5% 女 5.8%
	④1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加(20歳代・30歳代)	49.3%
	⑤調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設の増加	56.4%
	⑥保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設の増加	82.7%
	⑦小学校給食の米飯率の向上	週3回
基本方針2 健康寿命の延伸につながる食育の推進	⑧1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(生活習慣病予防)	59.8%
	⑨生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の増加	63.1%
	⑩ゆっくりよく噛んで食べる人の増加	46.8%
	⑪食に関する基礎知識を有する人の増加	4,429人/年
	⑫食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	22.3%
基本方針3 ネットワークによる食育推進と食文化の継承	⑬1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加	54.6%
	⑭地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	60.9%
	⑮食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加	—
	⑯1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(日本型食生活の継承)【⑧再掲】	59.8%
基本方針4 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進	⑰小学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	33.1% (米100%、野菜6.3%)
	⑱地元農産物直販会の開催数の増加	829回/年
	⑲食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加	77.3%
	⑳農業体験に参加する人の増加	6,183人/年

網掛け表示は、重点的に取り組む指標です。

達成状況 A：目標達成 B:目標は達成していないが改善傾向 C:変化なし及び悪化

中間評価時 (令和2年度調査)	第3次計画目標値 (R5年度)	達成状況	調査方法
74.9%	90%	C	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
70.8%	80%	B	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
0.5%	0%	C	令和元年度 枚方市3歳6か月児健康診査問診結果
小学6年生 5.3% 中学3年生 7.8% 高校生 4.1%	0%	B B -	令和元年度全国学力・学習状況調査 (小中学生) 令和2年度「食」に関するアンケート (高校生)
男 7.3% 女 6.4%	男 10% 女 5%	-	令和2年度「食」に関するアンケート (大学生・専門学校生)
42.1%	60%	C	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
52.6%	70%	C	令和2年度 幼稚園、保育所(園)、認定こども園における食育の取り組み状況アンケート(令和元年度実績)
81.6%	100%	C	令和2年度 幼稚園、保育所(園)、認定こども園における食育の取り組み状況アンケート(令和元年度実績)
週3回	週4回	C	令和元年度 枚方市実績
58.7%	70%	C	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
66.4%	75%	B	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
51.1%	55%	B	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
12,241人/年	12,000人/年	A	令和元年度 枚方市実績
19.1%	65%	C	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
51.8%	65%	C	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
43.7%	80%	C	令和2年度 小中学校における 食育の取り組み状況アンケート (令和元年度実績)
158人	450人	-	令和元年度 枚方市実績
58.7%	70%	C	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
28.2% (米79.0%、野菜8.2%)	38%	C	令和元年度 枚方市実績
722回/年	850回/年	C	令和元年度 枚方市実績
98.7%	85%	A	令和2年度 「食」に関する市民意識調査(20歳以上)
3,687人/年	7,300人/年	C	令和元年度 枚方市実績

7. 指標ごとの達成状況

包括指標

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
①	食育に関心のある人の増加	77.0% (n=1,236)	74.9% (n=1,490)	90%	C

令和 2 年度「食」に関する市民意識調査

<これまでの主な取組>

- ・関係機関・団体と連携し「ひらかた食育カーニバル」を開催し、食育の啓発に努めました。
- ・食に関する基礎的な知識を習得できる「ひらかた食育 Q&A（幼児用、小学生用、中高生用）」を 5 歳児、小学 5 年生、中学 2 年生を対象に配付し、授業等にて活用しました。また、「ひらかた食育 Q&A（大人用）」をイベントや健康教育等で配付し、食に関する基礎知識の啓発を広く行いました。
- ・第 3 次枚方市食育推進計画のダイジェスト版や食育リーフレットを関係団体（幼稚園・保育所（園）・認定こども園、小学校、中学校、地域コミュニティ）や食に関わるボランティアをはじめ広く市民に配布し、啓発を行いました。
- ・ホームページや SNS、FM ひらかた、広報ひらかた（枚方キッチン）等において食に関する情報発信を行いました。
- ・幼稚園・保育所（園）・認定こども園、学校等において、発達段階に応じて、朝食や栄養バランスに関する食の指導を実施しました。
- ・幼稚園・保育所（園）・認定こども園、学校等において、献立表の配付やお便りを通して保護者も含めた食育を行いました。

<今後の取組方向>

食育に関心のある人の割合は、策定時に比べて減少しています。しかし、生涯にわたって健全な食生活を実践する力を育むためには一人ひとりが食育に関心を持つことが重要です。イベントや講座等が中止・縮小され、啓発機会は減少していますが、従来の啓発に加え、新たな手法として動画や SNS 等を積極的に活用し、「食」についての情報発信を行うことで、より幅広い層への啓発を図ります。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
②	食育活動を実践している人の増加	68.6% (n=1,236)	70.8% (n=1,490)	80%	B

令和 2 年度「食」に関する市民意識調査

<これまでの主な取組>

- ・健康に配慮した食事の実践を促すため、広報ひらかた（枚方キッチン）へ健康レシピを掲載しました。
- ・食習慣改善につながるツールとして、カラダづくりトライアルバーチャル版（主食・主菜・副菜がそろった食事を記録するもの）を健康教育やイベントにおいて配付しバランスの良い食事の習慣化を促しました。
- ・健康づくりボランティア等が実施する調理実習や栄養講座の試食を通して、バランスの良い食事や適塩の体験を行い、生活習慣病を予防する食習慣につながるきっかけづくりを行いました。
- ・市内農家が栽培した農産物を市民が収穫する等の体験事業を行い、食への関心を高め地産地消を推進しました。
- ・幼稚園・保育所（園）・認定子ども園における栽培活動やクッキング体験を行い、食材への関心を高め、みんなで作って食べる楽しさが実体験できる取り組みを行いました。
- ・親子や地域における食農体験や学校給食や保護者への給食試食会を通して家庭での食育につながる活動を行いました。
- ・生涯学習市民センターにおいて市民と連携して、料理教室（子ども、親子、男性、一般向け）を実施しました。

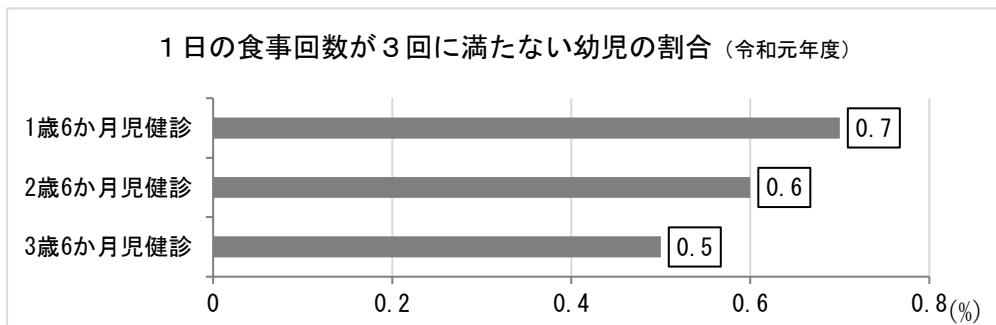
<今後の取組方向>

食育活動を実践している人の割合は増加しています。農業体験や調理実習、食育カーニバル等の参加型イベントを通して楽しく学ぶことは、食育の実践につながる効果的な推進方法と考えていますが、今後は集合型のイベントに限らず、SNS や動画を活用するなど、個人や家庭において食育の実践につながりやすいツールを検討し、引き続き推進していきます。

基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進

	指標	策定時値 (平成28年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	達成 状況
③-1	欠食のある幼児の減少	0.4% (n=2,938)	0.5% (n=2,589)	0%	C

令和元年度 3歳6か月児健康診査問診票より



<これまでの主な取組>

- ・マタニティスクールや妊産婦・新生児・乳幼児の訪問指導、乳幼児健康診査、離乳食・幼児食講習会、親子クッキング、栄養相談等の事業を通じ、保護者への食に関する指導や相談を実施しました。
- ・保育所（園）において、在宅の親子を対象としたふれあい体験事業や育児教室を実施し、生活リズムや食生活についてのアドバイスを行いました。
- ・保育所（園）の職員（調理員・保育士等）を対象とした食育に関する研修会を実施しました。
- ・ひらかた健康ほっとライン24により、授乳や離乳食についての相談を受けました。

<今後の取組方向>

欠食のある幼児の割合は策定時と比べ増加しています。幼児期は、健全な食生活につながる基本的な生活習慣を習得する時期であり、保護者の食に関する考え方や行動の影響を強く受ける時期です。そのため、今後も引き続き、妊産婦を含めた幼児の保護者を対象に、乳幼児健康診査や市が実施する講座を通して望ましい生活習慣や食事内容についての啓発を行い、欠食のある幼児のさらなる減少を目指します。また、乳幼児健康診査では引き続き、欠食が把握できた乳幼児に関して個別支援を通して助言を行います。

欠食は生活リズムとの関わりも大きく、子育ても含めた相談ができる場も大切であることから、市民を対象とした24時間年中無休の電話相談窓口「ひらかた健康ほっとライン24」の周知にも力を入れていくことで、幼児の健全な食生活の形成を目指します。

	指標	策定時値 (平成 28 年度・ 平成 29 年度)	現状値 (令和元年度・ 令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
重点 ③－2	朝食を欠食している 小中学生・高校生の 減少	小学 6 年生 5.9% (n=3,613)	小学 6 年生 5.3% (n=3,557)	0%	B
		中学 3 年生 7.9% (n=3,527)	中学 3 年生 7.8% (n=3,243)	0%	B
		高校生 6.6% (n=1,400)	高校生 4.1% (n=987)	0%	—

小中学生：令和元年度全国学力・学習状況調査

高校生：令和 2 年度枚方市「食」に関するアンケート

＜これまでの主な取組＞

- ・市立の全小学校・中学校においては、「食に関する指導の全体計画、年間指導計画」を策定し、食育を計画的に推進し、授業や給食の時間を活用して、子どもたちの食に対する理解や関心が深まるよう働きかけを行いました。
- ・PTA 給食委員会全体会における食育の講演会の実施や、PTA による給食試食会で食育リーフレットを配付し、朝食の大切さを伝えました。
- ・「朝食を摂る」「起床・就寝・勉強の時間を決める」等、規則正しい生活習慣について、「家庭への 7 つのお願い」としてまとめ、全保護者に啓発を図りました。
- ・健康医療キャラバン事業において、朝食摂取の啓発を含む食育講座を、市立小学校・中学校で実施しました。

＜今後の取組方向＞

朝食を欠食している小中学生の割合について、いずれも減少していました。

この時期に形成される食生活は、生涯にわたる食生活の基礎となります。引き続き、小中学校において「食に関する指導の全体計画」に沿って計画的な食育を推進し、授業や給食の時間を通して子どもたちの食に対する理解や関心を深め、行動変容につながるよう働きかけを行います。その他、小中学生・高校生を対象とした「ひらかた食育 Q&A」や健康医療キャラバン事業等を活用して今後も啓発に努めていきます。また、保護者の食習慣が子どもの食習慣に与える影響が大きいことからも、引き続き保護者に対する朝食の摂取を含む規則正しい生活習慣の啓発を行うため、PTA や小中学校と連携して健全な食生活の確立を目指します。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
③-3	朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	男 15.5% (n=207)	男 7.3% (n=77)	男 10%	—
		女 5.8% (n=430)	女 6.4% (n=356)	女 5%	—

令和 2 年度 枚方市「食」に関するアンケート

<これまでの主な取組>

- 大学の保健担当者と連携して健康に関するイベント（健康フェア）を実施し、朝食摂取やバランスの良い食事について等の啓発を行いました。

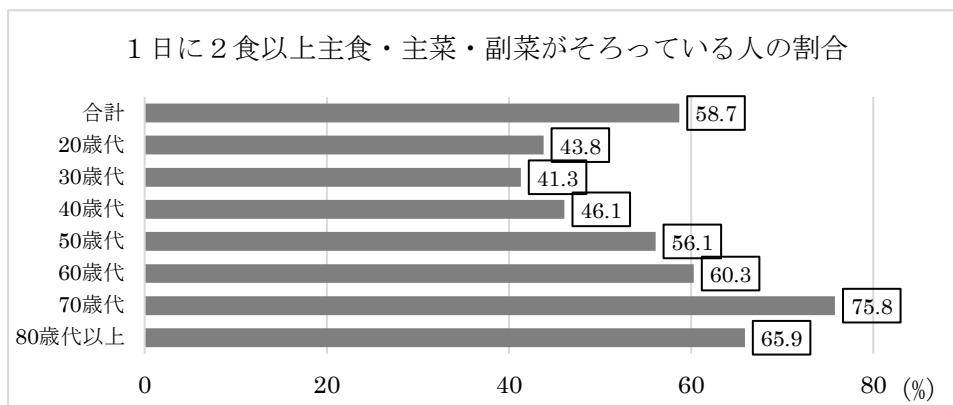
<今後の取組方向>

青年期は、自らの意志により生活習慣を管理し、食生活の自立に向けた大切な時期ですが、生活環境の変化により朝食の欠食につながりやすく、アンケート結果によると、寮や一人暮らしなど食の自立度が高くなるほど朝食を欠食する人の割合が多くなっています。

学生が自らの健康に关心を持ち、健康的な食生活を実践できるよう、大学の保健担当者と連携した健康に関するイベントを実施し、朝食摂取やバランスの良い食事についての啓発を行います。また、SNS やホームページを活用し、学生が自分で作れる簡単朝食レシピを発信していく等、学生の主体的な取り組みが推進されるよう効果的な啓発方法を検討していきます。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
重点 ④	1 日のうち 2 食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加 (20 歳代・30 歳代)	49.3% (n=221)	42.1% (n=211)	60%	C

令和 2 年度 枚方市「食」に関する市民意識調査



<これまでの主な取組>

- ・市の公式インスタグラムにて、バランスの良い食事についての講演を配信しました。
- ・妊産婦や乳幼児対象の市の事業を通じ、バランスの良い食事の啓発を行うとともに食生活に関する指導や相談を実施しました。
- ・小学校 PTA 主催による給食試食会で家庭においてバランスの良い食事ができるよう食育リーフレットを配付し啓発しました。
- ・大学健康フェアにおいてバランスの良い食事の啓発をしました。
- ・ひらかた健康 3 ツ星レストラン（枚方市独自の栄養基準を満たすヘルシーメニューを飲食店等において期間限定で提供する）の利用促進を図りました。
- ・バランスの良い食事の啓発のため、健康的な食事のレシピの動画配信を行いました。
- ・協会けんぽ等の集団健診をしている健康保険組合の被保険者やその家族を対象に健診会場でバランスの良い食事について啓発しました。
- ・枚方市の健康優良企業で働く従業員に対し、「保健所つうしん」を通してバランスの良い食事の大切さについて啓発しました。

<今後の取組方向>

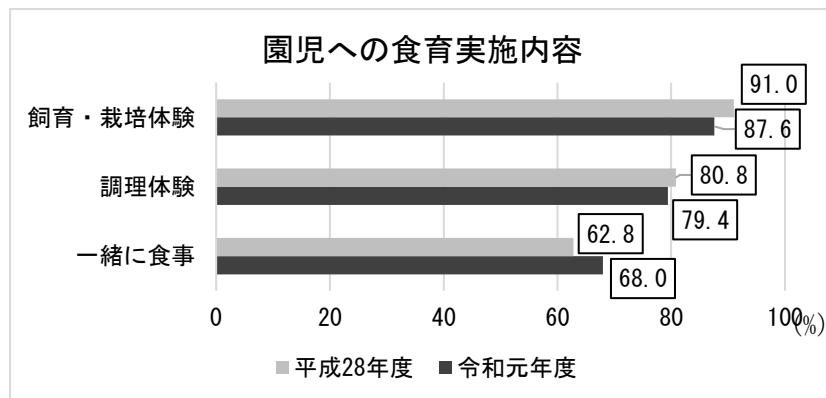
策定時に比べ、1日のうち 2 食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代は減少しています。20 歳代・30 歳代の若い世代は、他の世代に比べ朝食欠食や栄養の偏り等、食生活に課題が多い状況にありますが、壮年期以降の生活習慣病を予防し、次世代へ良い食習慣を受け継ぐためにも、若い世代が食や健康に关心を持ち、実践する必要がありま

す。若い世代の興味・関心を高めるため、オンライン講座やSNSなど新たな手法で情報発信をしていきます。また、若い世代にとって利便性の高い外食や中食においても、バランスの良い食事を選ぶことができるよう、これまでの取組を踏まえ、食環境づくりについて様々な手法での展開を検討していきます。

	指標	策定時値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑤	調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設の増加	56.4% (n=81)	52.6% (n=98)	70%	C

令和 2 年度 幼稚園・保育所(園)・認定こども園における食育の取り組み状況アンケート

※「調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設」の定義は、「飼育・栽培体験」「調理体験」「一緒に食事」の 3 項目全て実施している施設



<これまでの主な取組>

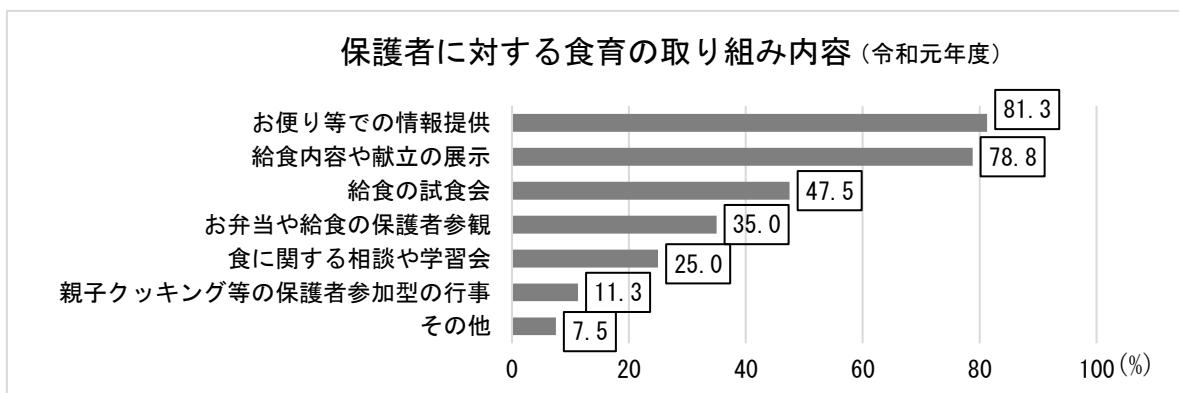
- ・乳幼児期からの適切な食事のとり方や望ましい食生活の定着、豊かな人間性の育成等を図るため、菜園活動や調理体験等を実施しました。
- ・各幼稚園等において、食育年間指導計画に基づき、夏野菜・冬野菜等を栽培・収穫し、カレー作り等の調理体験を実施しました。

<今後の取組方向>

体験型食育活動を行っている施設の割合は策定時に比べ減少していました。幼児期の食育をより効果的に進めるためにも、体験型の食育を一連の流れで行うことは大切です。現在、一連の体験型の食育を実施していない施設にも、各施設の事例や食育の実施状況を共有するとともに、食育の大切さを伝え、子どもの記憶に残る食育活動が実施できるように取り組みます。

	指標	策定時値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑥	保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所（園）・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設の増加	82.7% (n=81)	81.6% (n=98)	100%	C

令和 2 年度 幼稚園・保育所（園）・認定こども園における食育の取り組み状況アンケート



<これまでの主な取組>

- ・保護者へ食育便りの発行や給食参観、弁当参観、講演会や給食内容や献立の展示などを通じて食育に関する情報発信、啓発を行いました。
- ・在宅の親子を対象としたふれあい体験事業や育児教室を実施しました。

<今後の取組方向>

保護者に対する食育の取り組みを行っている割合は策定時に比べ減少していました。施設によって食育の実施状況にも差がみられることから、実施している様々な食育の取り組みについて各施設で共有し、保護者への啓発を行うことで各家庭における食育の実践につなげます。また、引き続き保育所（園）や幼稚園等に通っていない保護者に対し、各園で実施している育児教室や地域開放事業に合わせて食育の取り組みを実施します。

	指標	策定時値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑦	小学校給食の米飯率の向上	週 3 回	週 3 回	週 4 回	C

枚方市実績

<これまでの主な取組>

- ・現在使用している銘柄に加え 2 銘柄で供給できるよう米の納入業者と調整を図りました。
- ・炊飯業者、パン業者等と米飯回数増加に伴う変更について説明し理解を得ました。

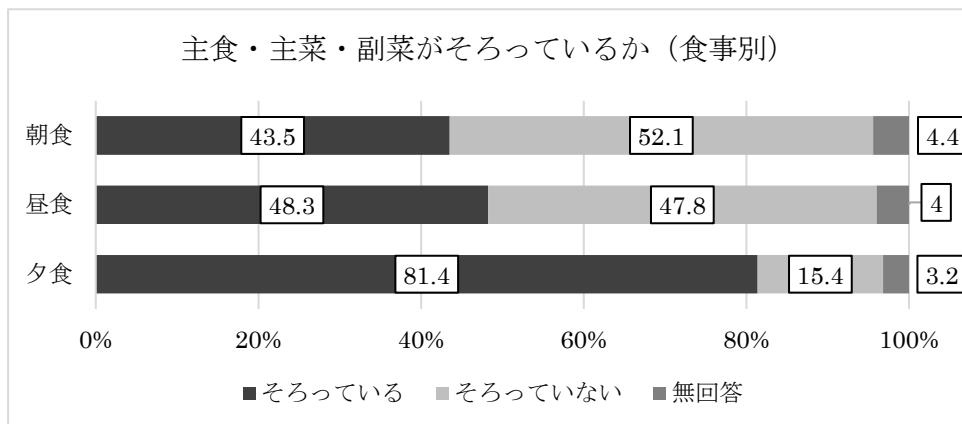
<今後の取組方向>

米を主食とした食習慣の形成や、日本の伝統的な食文化への関心を深めるためにも、学校給食の米飯率を上げることは大切です。米の使用量増加に見合う供給体制の構築や各事業者への影響等の課題解決に向けて調整を進めている状況です。引き続き関係機関の協力を求め、週 4 回の米飯給食の実施を目指していきます。

基本方針2 健康寿命の延伸につながる食育の推進

	指標	策定時値 (平成29年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成 状況
重点⑧	1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（生活習慣病予防）	59.8% (n=1,236)	58.7% (n=1,490)	70%	C

令和2年度 枚方市「食」に関する市民意識調査



<これまでの主な取組>

- ・市で行っているイベントや講座においてバランスの良い食事の大切さについて啓発しました。
- ・食育啓発リーフレットの配布やひらかた食育Q&Aを活用し、食に関する基礎知識を有する者を増やすことで、主食・主菜・副菜をそろえることの啓発を行いました。
- ・カラダづくりトライアルバーチャル版（主食・主菜・副菜がそろった食事を記録するもの）の啓発により、バランスの良い食事の実践を促しました。
- ・協会けんぽ等の集団健診をしている健康保険組合の被保険者やその家族を対象に健診会場でバランスの良い食事について啓発しました。
- ・障害者を対象とした配食サービスを行うことで、栄養バランスに配慮した食生活の実践を支援しました。

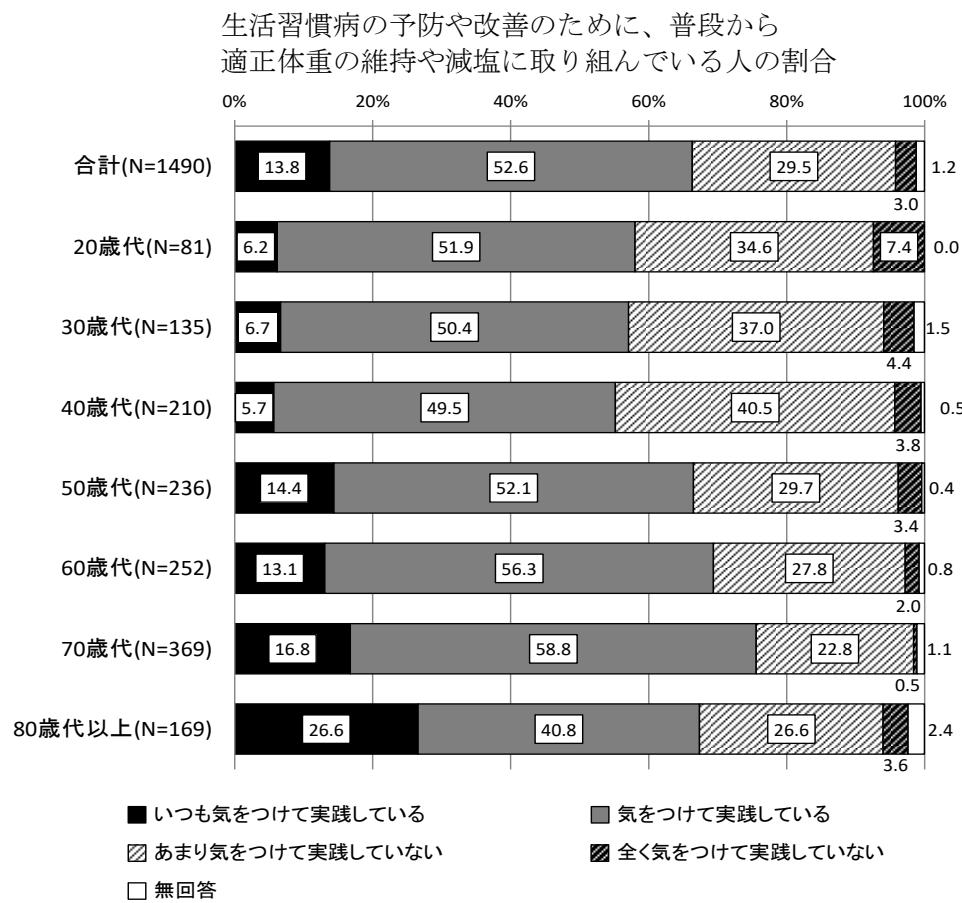
<今後の取組方向>

朝食と昼食において、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人が夕食と比べると低くなっています。

今後も、引き続き健康講座や食育リーフレットの配布、広報ひらかた（枚方キッチン）等において、バランスの良い食事について広く啓発していきます。さらには、栄養相談やひらかたカラダづくりトライアル120日チャレンジ（栄養・運動・口腔に関する取り組みの記録を120日間記録するもの）を通して、積極的に個別にアプローチをしていきます。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
重点 ⑨	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の増加	63.1% (n=1,236)	66.4% (n=1490)	75%	B

令和 2 年度 枚方市「食」に関する市民意識調査



<これまでの主な取組> ⑧の取組以外のもの

- ・栄養バランスの良い食事や減塩についての健康教育や栄養相談を実施しました。
- ・適正体重の維持を周知するオリジナルグッズ（BMI22についてプリントされたエコバック等）を作成し、様々なイベントにおいて、適正体重の大切さやバランスの良い食事についての啓発を積極的に行ってきました。
- ・枚方市国民健康保険加入者の特定保健指導対象者に対して適正体重の大切さを説明し、適正な食事の指導を行いました。
- ・生活習慣病の予防や改善を図るために、枚方市国民健康保険加入者に特定健康診査等の受診勧奨を積極的に行ってきました。

<今後の取組方向>

適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人は策定時より増加していました。生活習慣病の予防のためには、適正体重の維持や減塩等の大切さについて理解し、習慣的に実践する必要があります。特に実践できていなかった 20 歳代から 50 歳代の働く世代や子育て世代は、仕事や家庭での中心的な役割を担う時期でもあり、自分自身の健康に関心が向きにくいことが考えられます。

このような背景の中、外食や中食が多い人でもバランスの良い食事を知り健康的な食生活ができるよう、外食や中食においてもバランスの良い食事を市民が選ぶことができるよう、これまでの取組を踏まえ、食環境づくりについて様々な手法での展開を検討していきます。

また、特定健康診査を受診することで、健康に関心が低い者でも自分自身の健康状態が分かり、自ら栄養バランスのよい食事や運動習慣の確立等を図る機会となります。引き続き、特定健康診査の受診率の向上を図り、適切な保健指導を提供することで適正体重の維持や生活習慣病の予防につながる食生活を送る者の増加に努めていきます。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑩	ゆっくりよく噛んで食べる人の增加	46.8% (n=1,236)	51.1% (n=1,490)	55%	B

令和 2 年度 枚方市「食」に関する市民意識調査

<これまでの主な取組>

- ・枚方市の各種歯科健康診査の受診票や枚方市歯科口腔保健計画のダイジェスト版において「噛ミング 30」の周知を図ることで、ゆっくりよく噛んで食べることの大切さを伝えました。
- ・食育 Q&A（大人用）を活用し、「噛ミング 30」の周知をすることで、生活習慣病の予防を図りました。
- ・口腔に関する健康教育や出前講座の実施、よく噛む食材を使ったレシピも載せた広報誌（枚方キッチン）を活用した啓発をするとともに、ひらかた健康 3 ツ星レストラン啓発冊子においては「噛ミング 30」について掲載し周知しました。
- ・高齢者の低栄養の改善および口腔機能の向上を目的に介護予防講座を実施しました。
- ・ブラッシング指導にて口腔ケアの大切さを周知するとともに、学校給食や学校での食育を通してゆっくりよく噛んで食べることの大切さを啓発しました。
- ・保育所及び幼稚園での給食にカミカミメニューを取り入れ、噛むことの習慣化につなげました。
- ・20 歯以上の健全な歯を持つ 80 歳以上の方を表彰することで、市民に対する歯育推進の啓発を行いました。

<今後の取組方向>

噛むということは、全世代を通して健康の維持のために大切です。乳幼児期の乳歯が生えそろう頃は、あごの発達に大きく関わり、青年期や壮年期では、よく噛むことが生活習慣病の予防に役立ちます。さらに高齢期では、唾液の分泌促進により誤嚥や窒息の予防につながります。このように、すべてのライフステージにおいて、本市では一口 30 回以上噛むことを目標とした「噛ミング 30」を積極的に周知啓発してきた結果、ゆっくりよく噛んで食べる人は策定時に比べ、増加したと考えます。

今後も引き続き、ゆっくりよく噛んで食べることの大切さについて、ライフステージ別に合わせた啓発を積極的に図っていきます。

	指標	策定期値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑪	食に関する基礎知識を有する人の増加	4,429 人/年	12,241 人/年	12,000 人/年	A

枚方市実績

<これまでの主な取組>

- ・幼児用と中高生用ひらかた食育 Q&A を新たに作成し、世代を通して、食に関する基礎知識の啓発を行いました。(幼児用…保育所（園）・幼稚園・認定こども園、小学生用…小学 5 年生、中高生用…中学 2 年生、大人用…健康教育実施時やイベント等で配付)
- ・令和元年度に幼児用のひらかた食育 Q&A の見直しを行い、より取り組みやすい教材になるよう工夫をしました。

<今後の取組方向>

生涯にわたって健やかな食生活を実践するためには、全世代がライフステージに応じた食育に関する正しい知識を習得することが大切です。そのため、広く食に関する情報発信を行い、食に関する基礎知識を有する人をさらに増やすために、第 3 次計画より、幼児用と中高生用ひらかた食育 Q&A を新たに作成しました。

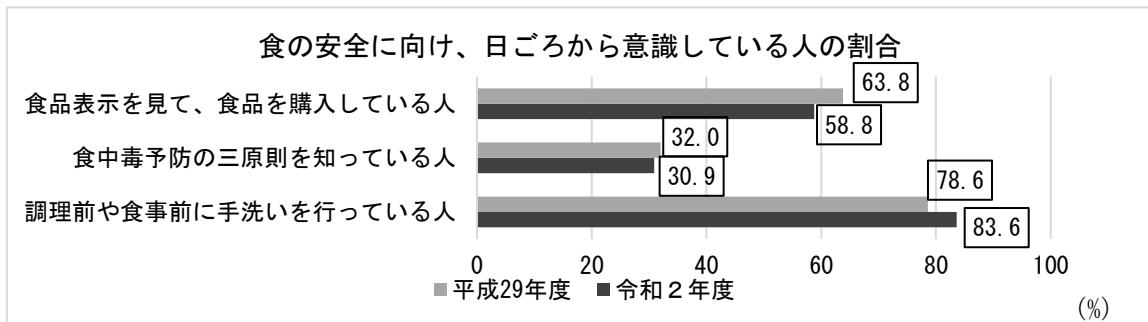
今後も引き続き、食育 Q&A が保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小中学校における計画的な食育活動の中で活用されることが望ましいことから、授業等で活用しやすいよう、各機関と連携を図りながら内容の充実を図ります。また、すべての児童や生徒へ一人一台のタブレット端末の配備が予定されていることから、ひらかた食育 Q&A についてもデータでの配信を行う等、配布方法を教育の現場に合わせることで、学校生活の中で取り入れやすくなるよう学校との調整を進めていきます。

さらに、大人用食育 Q&A は、働く世代への健康教育の場面（民間企業への出前講座）等、あらゆる機会において活用していきます。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
重点 ⑫	食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	22.3% (n=1,236)	19.1% (n=1,490)	65%	C

令和 2 年度 枚方市「食」に関する市民意識調査

※ 「食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人」の定義は、「食品表示を見て、食品を購入している人」「食中毒予防の三原則を知っている人」「調理前や食事前に手洗いを行っている人」の 3 項目全てに該当する人



<これまでの主な取組>

- ・食中毒予防の 3 原則や、食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践することの普及・啓発を行いました。（食中毒予防街頭キャンペーン、市主催イベントでの啓発物品配布、小中学校・市施設での啓発ポスターの掲示、広報ひらかた・FM ひらかた・ホームページでの情報発信、行事開催時臨時に飲食物の調理や提供を行う際の衛生管理についての啓発）
- ・食品に関連する消費生活相談に応じるほか、食品表示や食の安全・安心等に関する知識の普及・啓発を目的に、市民を対象とした講座を実施しました。
- ・保育所・福祉施設等の給食調理担当者、市民団体及び食品営業者団体等に対して、食中毒予防について講習を行いました。
- ・学校給食の食中毒予防対策として、関係者に対して衛生研修や立ち入り調査、学校給食用食材の検査を行い、学校給食の衛生管理指導を行いました。
- ・食品に関連する消費生活相談に応じるほか、食品表示等の知識の習得を目的とした市民講座を開催しました。

<今後の取組方向>

食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人（※）の割合は低下していましたが、上記グラフのように 3 項目のうち、「食品表示を見て、食品を購入している人」は 58.8%、「調理前や食事前に手洗いを行っている人」は 83.6% であり、多くの市民が食の安全に関して、日ごろから意識していることが伺えます。

今後、さらに食の安全性に関する正しい知識を普及するため、3 項目のうち割合の低い「食中毒予防の三原則」を優先課題とし、あらゆる機会を通して積極的に周知・啓発を行います。

基本方針3 ネットワークによる食育推進と食文化の継承

	指標	策定時値 (平成29年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	達成 状況
⑬	1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加	54.6% (n=1,236)	51.8% (n=1,490)	65%	C

令和2年度 枚方市「食」に関する市民意識調査

<これまでの主な取組>

- ・「共食」のリーフレットの作成、ホームページの掲載、FMひらかたの放送を通し、共食の大切さを周知啓発しました。
- ・子どもの居場所づくりとして「子ども食堂」の充実を図り、(市内18団体、20か所) 共食の機会が提供されるよう支援しました。
- ・いきいきサロンの運営を担う校区福祉委員の養成講座において、「共食」の大切さを伝えました。
- ・健康づくりボランティアが実施する調理実習等を通し、仲間と一緒に作って食べること「共食」の体験につなげました。
- ・小中学校でのPTA給食試食会においてリーフレットを用いて啓発しました。

<今後の取組方向>

1日に2回以上誰かと食事をとる人の割合は、策定時に比べ減少していました。
 家族や友人と一緒に食事をとることは、食事を味わうだけでなく、コミュニケーションが図れ、食欲増進をはじめとした健康につながる様々な効果があります。
 感染予防対策が重視されている期間は、「共食」の機会を提供することは難しくなっていますが、自炊や家族で食事をとる機会が増えた状況を活用し、「共食」の大切さを積極的に周知し、共食の実践につながるよう、啓発を行います。

	指標	策定時値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑯	地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	60.9% (n=64)	43.7% (n=64)	80%	C

令和 2 年度 小中学校における食育の取り組み状況アンケート

<これまでの主な取組>

- ・食育活動を行っている団体等に関する情報をまとめた地域人材活用冊子を小中学校へ配付しました。
- ・小学生を対象に農業者の指導のもと、植え付けから収穫までの農作業や収穫した農産物の加工・調理・試食などの「食農体験学習」などを実施しました。

<今後の取組方向>

学齢期における体験活動は将来における健全な食生活を実践するために大切です。

食育活動を行っている団体等、地域人材に関する情報をホームページに掲載するなど、広く活用を促す方法を検討していきます。また、引き続き、感染予防に配慮しながら体験活動を行うとともに、児童や生徒へのタブレット端末の配備に合わせ、地域の農業関係者と協力して作成した映像による学習を行うなど、タブレット端末を活用した多様な食育活動を検討します。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑯	食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加	—	158 人	450 人	—

枚方市実績

※目標値は、計画期間の「健康づくりボランティアの養成講座修了者及びその他新規活動者数」と
「いきいきサロン健康づくりサポーター養成講座の参加者数」の積み上げ実数。

<これまでの主な取組>

- ・食育の推進に関わるボランティアとして、健康づくりボランティア（枚方市健康づくり食生活改善協議会、健康リーダー）、いきいきサロン健康づくりサポーターを養成しました。
(健康づくりボランティア講座修了者数…平成 30 年度 13 人、令和元年度 17 人
いきいきサロン健康づくりサポーター養成講座修了者数…平成 30 年度 65 人、令和元年
度 63 人)

<今後の取組方向>

食育推進に関わるボランティアの養成者数は 158 人で、継続的に養成が進められている
状況です。食育を市民活動として推進するためには、地域に密着したボランティアの存在は
欠かせません。健康づくりボランティア養成講座の参加人数を増やすため、実施手法や周知
方法を工夫し、引き続き、食育推進に関わるボランティアを養成していきます。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
重点 ⑯	1 日のうち 2 食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（日本型食生活の継承）【⑧再掲】	59.8% (n=1,236)	58.7% (n=1,490)	70%	C

令和 2 年度 枚方市「食」に関する市民意識調査

<これまでの主な取組>

- ・日本型食生活についてのリーフレットの作成と配布を行いました。
- ・食育カーニバルにおいて日本型食生活についてのブースを設け、啓発を行いました。
- ・学校給食に郷土料理や行事食をより一層取り入れることで、子どもたちの食文化に対する理解や関心を深めました。
- ・給食だよりやホームページ、広報ひらかた（枚方キッチン）などを通じて郷土料理や行事食について情報発信し、子どもだけでなく、保護者に対しても共有できるよう、啓発しました。
- ・友好・交流都市物産展を開催し、食文化に関する啓発や情報発信を行いました。

<今後の取組方向>

1 日のうち 2 食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合は策定時より減少しています。主食・主菜・副菜のそろった日本型食生活は、生活習慣病の予防や低栄養の予防など、全世代を通して健康的な食生活のベースとなるため、今後も継続して周知啓発を行っていきます。

さらに、日本型食生活を含む郷土料理や伝統食などの継承を推進するためには、市民に食文化に関するさらなる啓発が必要です。今後も学校給食やイベント等、あらゆる機会を通じて広く情報発信を行います。

基本方針4 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進

	指標	策定時値 (平成28年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	達成 状況
⑯	小学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	33.1% (米100%・野菜6.3%)	28.2% (米79.0%・野菜8.2%)	38%	C

枚方市実績

<これまでの主な取組>

- ・需要と供給のバランスを考慮し、地元農産物の生産拡大や品質向上について生産者に働きかけるとともに、枚方産・府内農産物の利用促進を図ってきました。

<今後の取組方向>

児童の地域産業や食文化への関心と理解を深め、食物や生産者に対する感謝の念を醸成していくため、学校給食において地元農産物を使用していくことは大切です。

しかし、風水害等、天候の影響による生産量の減少や、高齢化による農家の減少など、地元農産物の確保が課題となっています。引き続き、生産者への働きかけを行いながら、枚方産・府内産農産物の活用の促進に努めていきます。

また、給食献立表や給食だより、広報ひらかた（枚方キッチン）で地元農産物についての啓発を行うことに加え、新たに地元野菜を使った給食メニューを紹介したカレンダーを作成し、学校において掲示することで、児童や保護者への周知を図っていきます。

	指標	策定時値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑯	地元農産物直販会の開催数の 増加	829 回/年	722 回/年	850 回/年	C

枚方市実績

<これまでの主な取組>

- ・各地域で開催される農業者団体による地元農産物の直販会を支援しました。
- ・農業まつり等を開催し、地元農産物の普及啓発に努めました。
- ・広報ひらかた（枚方キッチン）において、枚方産野菜を使用したメニューの紹介や、ホームページで直販会開催場所の周知を行いました。

<今後の取組方向>

地元農家が栽培し収穫した新鮮な農産物を販売する直販会は、生産者と消費者との交流を深め地元農業への関心を高める機会につながります。直販会開催回数の増加に向けて、農業従事者のニーズに応じた適正な支援を引き続き行います。

	指標	策定時値 (平成 29 年度)	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
⑯	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加	77.3% (n=1,236)	98.7% (n=1,490)	85%	A

令和 2 年度 枚方市「食」に関する市民意識調査

<これまでの主な取組>

- ・4 R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）啓発事業において、手つかず食品削減キャンペーンを開催し、賞味期限切れや作りすぎ、食べ残しの削減について啓発しました。
- ・「食べのこサンデー」の標語とともにロゴマークも作成し、日曜日には冷蔵庫に残っている食材を必ず確認するなど、食品ロス削減を認識し、行動につなげることを啓発しました。

<今後の取組方向>

策定時に比べ、食品ロス削減のために何らかの行動している人は増加しています。市民の食品ロスへの意識の高まりを継続するため、引き続き 4 R 啓発事業において、小学校・中学校・高等学校等に向け食品ロス削減の取り組みの啓発をする環境出前授業やごみ減量講演会を開催し、食品ロス削減の啓発を行います。

また、コロナ禍において市民が自宅から参加できるごみ減量の企画として、食品ロス削減に役立つレシピ（エコレシピ）を募集するエコレシピコンテストを開催する等、「食べ残し削減」について企画し、幅広い世代へ啓発していきます。さらに、児童に対しリモートでの環境学習を実施し、食品ロス削減の取り組みについて周知します。その他、生ごみ堆肥化事業において、NPO と協働し、段ボール箱やコンポスト容器、EM（有用微生物群）を使用した生ごみ資源化の講習会を開催することで、食品ロスやごみ減量化の意識向上につなげていきます。

	指標	策定期値 (平成 28 年度)	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和 5 年度)	達成 状況
㉙	農業体験に参加する人の増加	6,183 人/年	3,687 人/年	7,300 人/年	C

枚方市実績

<これまでの主な取組>

- ・地元農家が栽培した新鮮な農産物を収穫する農業体験事業「農業ふれあいツアー」や、小学生を対象に農業者の指導のもと、植え付けから収穫までの農作業や収穫した農産物の加工・調理・試食などの「食農体験学習」を実施しました。

<今後の取組方向>

農業従事者の意欲を高めるためにも、農にふれあう体験を通じて、市民に農業についての知識や理解を深めてもらうことが大切です。

令和元年度は農作物の不作により、農業体験事業の一部が中止となり、農業体験の参加者数は減少しましたが、引き続き、農にふれあう機会の創出や周知を行うことで、農業体験参加者の増加に努めます。

8. 今後、優先的に取り組むべきこと

今回の中間評価より、これまで推進してきた食育を継続しつつ、新しい生活様式に対応したものへと変化させていくことが課題の一つと考えます。

コロナ禍での食生活の変化として、外食を控える人が増えていること、特に若い世代や働く世代において、家族と一緒に食事をする機会や、自炊の機会、中食の利用が増えていることがわかりました。この背景には、感染予防対策に加え、オンラインを活用した授業の導入や、在宅勤務の広がり等があると思われます。

この状況を踏まえつつ、最終年度に向けて、第3次計画より新たに加わった基本方針である「若い世代を中心とした食育の推進」「健康寿命の延伸につながる食育の推進」を更に進めるため、以下の2つの指標を優先課題として取り組んでいきます。

- 1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）【指標④】
- 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の増加【指標⑨】

今後は、新しい生活様式下において、食育の啓発を集合型のイベントや講座に限らず、インターネットやSNS等を活用し、簡単な調理法を動画で配信するなど、情報発信の方法を工夫することで、若い世代へ効果的に周知啓発できるよう努めていきます。

また、食育に関心のない人や、関心は持っているが実践できていない人も自然とバランスの良い食事を選ぶことができる食環境づくりについて、様々な手法での展開を検討していきます。

さらに、適正体重の維持や減塩に気をつけた食事を実践することは、主食・主菜・副菜をそろえた食事を意識することにつながり、相乗的に良い影響を及ぼすため、啓発媒体等を活用し、両指標についてあらゆる機会をとらえ積極的に啓発していきます。

食育は、家庭はもちろん、仲間と一緒に楽しい食育体験を積み重ねることにより、一人ひとりの実践につながっていくものと考えます。そのため、引き続き、保育所（園）・幼稚園・認定こども園、学校等での子どもや保護者への食育活動を進め、食に関する知識や取り組みを次世代へ伝えつなげていくように取り組む他、食に関するボランティアの身近な地域における食育の実践や、農業体験事業等様々な食育活動についてあらゆる手法を検討し、ネットワークを生かしながら一体となって取り組むことで、より効果的な食育の推進を図ります。